



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生きていくイメージで名付けました。

平成31年度第1回みえスタディ・チェックの結果を 学校全体で共有し、「できなかったこと」を 「できる」ようにする取組につなげましょう！



平成31年度第1回みえスタディ・チェックの結果がまとまりました。今回は、結果から見られた成果と課題、課題を克服する取組を進めるうえで大切にしたいことを紹介します。（結果の詳細は、「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」のWebページに掲載しています。）

成果 「できなかったこと」が「できる」ようになってきています！

※過去のみえスタディ・チェックと比較して

- ＜小学校＞国語「文の主語を選択する」4年：5.4ポイントup（H30第1回比）
理科「地面の温度の測定方法を選択する」5年：17.6ポイントup（H30第1回比）
＜中学校＞国語「接続語を選択する」2年：11.0ポイントup（H29第1回比）
数学「相対度数を求める式をかく」2年：12.6ポイントup（H30第2回比）



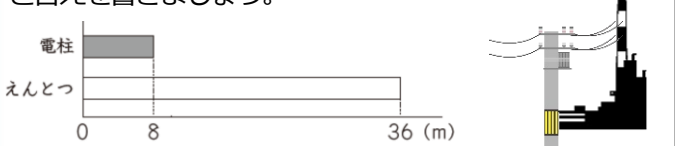
課題 「〇は□の何倍か」を求める問題に、課題が見られました。

下の問題は、割合の学習の基礎となる「〇は□の何倍か」を求める問題です。昨年度の4月に5年生のみえスタディ・チェックで出題しましたが、その際の正答率は55.0%でした。その結果を踏まえて、各学校で「できなかったこと」を「できる」ようにする取組を進めたことにより、昨年度1月のみえスタディ・チェックでは正答率を87.7%まで改善することができました。

しかし、今回、同様の問題を出題したところ、昨年度の4月と同じような状況となっています。

H31年度 第1回 小5算数

さちさんの部屋のまどから見える電柱の高さは8m、えんとつの高さは36mです。
えんとつの高さは、電柱の高さの何倍ですか。求める式と答えを書きましょう。



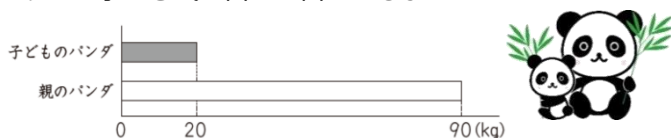
【H31 第1回】
正しく立式できる
・・・84.2%
正しい答えが導ける
・・・50.3%

改善したはずなのに、
どうして・・・



H30年度 第1回・第2回 小5算数

パンダの親子がいます。子どものパンダの体重は20kg、親のパンダの体重は90kgです。
親のパンダの体重は、子どものパンダの体重の何倍ですか。求める式と答えを書きましょう。



【H30 第1回】
正しく立式できる
・・・83.4%
正しい答えが導ける
・・・55.0%

【H30 第2回】
正しく立式できる
・・・89.8%
正しい答えが導ける
・・・87.8%

課題の
改善

各学校で、学力向上に向けた取組をより効果的に進めるために大切にしたいこと

- みえスタディ・チェックや全国学力・学習状況調査の結果について成果・課題を学校全体で共有しましょう。
みえスタディ・チェックや全国学力・学習状況調査で明らかになった自校の成果・課題については、当該学年だけのことでせず、学校全体で子どもたちがどんなふうにつまずいているかを確認し、各教科指導においてどこに留意したらよいかなどを話し合うことが大切です（「どの学年でどんな学習をするのか」や「指導のポイントはどこか」などを確認するために「わかる・できる育成カリキュラム」を活用してください）。
- 授業改善の取組や「できなかったこと」を「できる」ようにする取組を、学校全体で進めましょう。
- 取組を進めていくなかで、適宜「どこまでできるようになったか」の確認をしましょう（学-Viva セット第14弾を各学校に提供しましたので、子どもたちの状況に応じて、授業や補充学習、長期休業中の宿題などで、是非活用してください）。

「めあての提示」と「振り返る活動」から授業改善を進めよう

～6月3日(月)実施 県内小中学校等新任校長研修会 三重大学教職大学院 森脇健夫教授の講義より～

●「めあて」の中身をつくりかえることで、「主体的・対話的で深い学び」へ

授業の中で提示される「めあて」は、児童生徒が本時の授業で何に取り組むかが理解できるように示した「授業の見通し」です。「めあて」の役割は、児童生徒が取り組むべき内容を把握し、主体的に取り組めるようにすることです。また、児童生徒が、自分の学習について「できたかできなかったか」「分かったか分からなかったか」等を授業の中でも後でも振り返ることができるようにする役割もあります。

「めあて」が、「授業のねらい」を具体化したものであるとともに、「児童生徒の視点から表現した『めあて』」となっていますか。そして「児童生徒が自ら振り返ることができる言葉」となっているでしょうか。

「めあて」づくりは、授業が終わった時の児童生徒の姿（「できるようになる」「分かるようになる」等）を想定することから始める「逆算設計」で考えることが大切です。

「～を考える」「～を調べる」といった「めあて」では、「振り返り」が曖昧になります。「～が分かる」「～ができるようになる」という「めあて」であれば、「振り返り」が明確になります。「めあて」の言葉が、学習過程と学習結果に対応した表現になっているか、また、児童生徒にとって「やってみたい」「わくわくする」と思える「めあて」になっているか等について吟味する必要があります。

※「めあての『逆算設計』」「めあての言葉の吟味」等の「めあての6要件」参考資料



➡（グループディダクティカ編『深い学びを紡ぎだす』勁草書房2019年1月発行 森脇論文参照）

●「振り返り」の目的・効果を再認識することで、「学習の理解と定着」へ

授業で「振り返り」を行っている学校の割合は、満足できる水準に達しており、多くの学校では、「振り返り」を行うことで、児童生徒の理解定着状況や一人ひとりのつまづきを把握し、授業の見直しや補充学習等の手立てをとることにつながっています。また、「振り返り」を記述式で行うことで、「学習の定着度」を計るだけでなく、「書く力」や「表現力」の向上につながっている学校もあります。

このように、「振り返り」の目的はいくつかありますが、学習者である児童生徒にとってもっとも重要なことは、「学習のメタ認知」（できた・できなかった、分かった・分からなかったことを自己把握すること）ができるようになることです。「振り返る活動」は、「学習の定着度」を把握するだけでなく、児童生徒が自己の到達度や課題を把握する場として認識し、「振り返り」を行うことが大切です。児童生徒が自己の状況を把握することで、「学びに向かう力」が高まるようになります。

「めあて」は、事前に準備し、計画したとおりに行いやすいのに対し、「振り返り」は、授業の終盤に行われるため、授業の展開によっては、時間をきちんと取ることが難しい場合や臨機応変に「振り返り」の方法を変えて対応しなければいけない場合も出てきます。しかし、「振り返り」の目的・効果を学校で共有し、必ず「振り返り」を行うという共通理解のもとに、組織的な取組を進めることが大切です。



「めあて」「振り返り」を考えるときに重要なことは、その意義、目的、効果を押さえておくことです。「めあて」「振り返り」は、児童生徒の自律的学習につながる強力なツールとなることが期待されています。そのような見通しをもって「めあて」「振り返り」を行うようにしましょう。

●●講座案内●● 「教員の授業力向上に向けて指導教諭のなすべきこと」

<日時> 8月30日(金) 13時30分から

<講師> 三重大学教職大学院 森脇健夫教授

指導教諭の皆さん、研修にかかわる先生方、ぜひご参加いただき、各校での授業改善にお役立てください。県総合教育センターWebページ (<http://www.mpec.jp/>) から受講申し込みができます。

令和2年度、小学校で教科としての「英語」がスタート！



～6月7日（金）小学校外国語教育研修会 文部科学省初等中等教育局視学官 直山木綿子先生の講義より～

小学校で、今、すべきことは？

Point 1

言語活動を授業で繰り返し行い、そのイメージをもち、理解する。

新学習指導要領における外国語活動・外国語科では、小学校から高等学校までのすべてで、言語活動を通して資質・能力を育成することが目標となっています。

- 「言語活動とは実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動である。」
(「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」より)
- 「決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切にしたい。」(「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」より)

Point 2

Small Talk を取り入れる～小学校高学年～

- ◆Small Talk はウォーミングアップではなく、主たる言語活動の1つです。
- ◆Small Talk を行うことで、子どもたちだけでなく、指導者の英語力も向上します。

- Small Talk は、「誰かになりきって話したり、役を演じて疑似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする」活動。
(「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」より)
- 目的は、「①既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る、②対話を続けるための基本的な表現の定着を図る」こと。(「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」より)

※大切なのは、やり取りの中で、子どもが伝えたくても英語で表現できなかったことを、指導者が既習表現に結び付けられるようヒントを出し、子ども自身に、既習表現を想起させて考えさせることです。

Point 3

高学年における「読むこと」「書くこと」の指導の在り方を、新教材の活用を通して理解する。

- ◆「We Can!」の指導編や指導案には、指導方法が詳しく掲載されています。
子どもが自分で文を作り出して書いたり、初めて出会う文を読んだりすることはありません。
まずは、そのまま実践し、その趣旨を理解しましょう。



Point 4

小中連携を今まで以上に進める。

- ◆小学校では、場面設定の中で言語材料に出会います。
小学校で扱っている言語材料(“What would you like?”等、言語活動で活用した表現)、教材、活動内容や子どもたちの成果物などを中学校へ伝えましょう。

Point 5

【評価について】まずは、外国語活動(中学年)、外国語科を意識した外国語活動(高学年)を確実に実施する。

- ◆授業で実践していないことを評価することはできません。まずは、言語活動を授業に取り入れましょう。
※11月頃に国から評価の参考資料が出される予定です。

研修会 参加者の 声

- ・児童が生き生きと活動できる言語活動について、もっと学びたいと思った。
- ・Small Talk は思っていたよりもできそうだと感じた。
- ・やはり、授業をするには、研究と分析が必要だと思った。
- ・学校全体で研修等に取り組んでいくことが必要だと思う。

●●● 小学校理科における観察・実験の充実に向けて ●●●

三重県教育委員会事務局 研修推進課では、三重CST（コア・サイエンス・ティーチャー）認定教員の協力を得て、小学校の理科実験に関する研修講座を実施するとともに、教科書に記載されている理科実験を効果的に行うためのコンテンツを作成し、「ネットDE研修」で配信しています。

★ 観察・実験の準備や教材研究に「ネットDE研修」を活用しましょう ★

「すぐに使える小学校理科基礎実験」

現在公開している実験

4年生のコンテンツ

- 【水を熱したときの変化】
- ①水を温めたときの状態の変化
 - ②水を熱したときのあわの正体
 - ③**水を冷やしたときの変化**
- 【もののあたたまり方】
- ①水のあたたまり方

「水が授業時間内に氷にならない。」「温度が下がらない。」という経験はありませんか？

気温や水の温度が高い時に、どのような工夫をしたらよいかを紹介しています。



5年生のコンテンツ

- 【もののとけ方】
- ①もののとけ方
 - ②水よう液の重さ
 - ③ものが水にとける量
 - ④水の温度とものがとける量
 - ⑤**とかしたものをとり出す**
- 【ふりこ】
- ①**ふりこが1往復する時間**
- 【器具の使い方】
- ①顕微鏡の使い方

ろうとや、ろ紙の適切な大きさやガラス棒を当てる位置など、ろ過の適切な操作方法を習得させましょう。

H30年度全国学力・学習状況調査で出題された実験です。



ふりこが1往復する時間を変える要因を確かめるため、変える条件と変えない条件を明確にしましょう。

H27年度全国学力・学習状況調査で出題された実験です。



6年生のコンテンツ

- 【月と太陽】
- ①月の形の見え方
- 【水よう液】
- ①水よう液の仲間分け
 - ②試薬の調製

いつでも、どこでも、何度でも

ネットDE研修は、昨年10月より、スマホやタブレットでの視聴が可能になりました。理科室で予備実験などに活用してみてください。



【受講者の声】

- ・**効率の良い実験の仕方**、教材開発の工夫に役立っています。
- ・動画を見て、初任の先生や該当学年の先生に紹介しました。

【ネットDE研修の視聴方法】

県総合教育センターのホームページ<<http://www.mpec.jp/>>から[2]ネットDE研修→[02]ログインをクリック。または右記のQRコードからログインして下さい。
(ログインID、パスワードはどちらも6桁の職員番号です。)
ログイン後、「講座を検索する」から「理科」を入力して下さい。

QRコードはこちら



●●講座案内●● 見通しを持った観察・実験を行うために

「小学校理科基礎実験研修」 <日時> 8月2日(金) 13:30～ <会場> 県総合教育センター

「授業づくり(小学校理科)」 <日時> 11月25日(月) 13:30～ <会場> 鈴鹿市立郡山小学校

【研修講座の申し込み方法】

県総合教育センターのホームページ<<http://www.mpec.jp/>>から

1研修講座→06教科等研修→(K04)理科→「受付中」をクリックして下さい。